

1450

## 生涯学習概論

2単位（通信授業1単位・面接授業1単位）

神野善治教授、紫牟田伸子講師、田中洋江講師

## 授業の概要と目標

「自ら学ぶ」ことを中心テーマとし、誰もが・いつでも・どこでも学べる生涯学習社会の実現が提唱されて以来の教育施策の理念と具体的な歩みを把握したうえで、博物館と美術館を中心として、図書館や公民館などの社会教育機関が市民の学習活動に貢献するために必要な取り組みを理解し、生涯にわたって学習を継続するうえで求められる基本的態度を自らが獲得するとともに、他者の学習を支援することへの意識を高めること。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

博物館の生涯学習活用について講義と見学、グループ議論等により指導。

## ○通信授業課題

教材による学習の後、社会教育施設の事例調査に基づく活動事業提案を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

\*課題については学習指導書『生涯学習概論 平成30年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

面接授業



通信授業

## [面接授業]

- ・博物館資料から学びを構成する／情報を知識にするための場／教化装置としての博物館 等
- ・施設見学／職員による説明／施設の運営と学習への対応／学習情報提供の観察
- ・調査発表と質疑応答／発表への講評とディスカッション

## [通信授業]

- ・(教材による学習) 生涯学習実践者としての学芸員／生涯学習の基本／実物学習の価値／ラングランの理念／生涯学習行政の展開／生涯学習における指導者の役割／生涯学習の先達者たち／社会的条件と学びとの関係／社会教育における出会いと自己発見 等
- ・(学修報告と添削指導) 社会教育施設の事例調査に基づく活動プログラム提案

## 成績評価の方法

通信授業と面接授業との総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

[備 考] 芸術文化学科文化支援コース3年次必修科目。

芸術文化学科造形研究コース3年次選択必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

## 教材等

教科書：神野善治監修『ミュージアムと生涯学習』（武蔵野美術大学出版社 2008年）

学習指導書：『生涯学習概論 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

## その他

レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

面接授業ではグループワーク及び学外見学を予定。

## 1460 | ミュゼオロジーII

4 単位（通信授業 4 単位）

金子伸二教授、杉浦幸子教授、嘉藤笑子講師、弘中智子講師、小金沢智講師

## 授業の概要と目標

「ミュゼオロジー」概念についての理解を踏まえ、博物館の経営（経営基盤、管理・運営、他機関・地域連携等）と資料（収集、整理保管、活用、調査研究等）に関する基礎的な知識を修得するとともに、美術館を中心とした国内外の博物館の具体的な諸事例を通じて、博物館における機能や事業との関連、今日の動向や課題について学修すること。

## 課題の概要

## ○通信授業課題 1～4

教材による学習の後、資料収集の意義に関する事例調査、収蔵資料と企画展示との関係、博物館の個性化・多様化傾向の要因、文化行政の変化と博物館の役割を考察する4点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

\* 課題については学習指導書『ミュゼオロジーII 平成30年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

- ・(教材による学習) ミュージアムと経営(組織・人材/行財政/使命・評価/施設・設備/教育)、ミュージアムと資料(理念/収集/調査・研究/整理/活用)等
- ・(学修報告と添削指導) 資料収集の意義に関する事例調査/収蔵資料と企画展示との関係についての考察/博物館の個性化・多様化傾向の要因についての考察/文化行政の変化と博物館の役割についての考察

## 成績評価の方法

レポートによる。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 文化支援コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」p.051の特例を除く)。

[備考] 芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の3年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

## 教材等

教科書：金子伸二・杉浦幸子編『ミュゼオロジーの展開 経営論・資料論』  
(武蔵野美術大学出版局 2016年)

学習指導書：『ミュゼオロジーII 平成30年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年)

## その他

現場での体験を得るために、美術館・博物館などが募集するボランティア活動などに積極的に参加することが望ましい。インターネットなどを活用し、情報を収集する。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

1470

## 博物館実習

3 単位（通信授業 1 単位・面接授業 2 単位）

神野善治教授、新見隆教授、榎本寿紀講師、嘉藤笑子講師、岡しげみ講師

## 授業の概要と目標

博物館に関する科目において学習した内容を総合的に点検・整理する機会とするとともに、資料管理・展覧会の企画・運営・展示・普及に関わる各種業務を模擬的に体験することを通して、博物館活動や学芸員の職務に対する実際的な理解を深め、あわせてワークショップ活動やアウトリーチ活動など、美術館が施設以外の場へと展開している事業についてファシリテーターの立場でプログラム企画に取り組むことによって体験を積む。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

展覧会企画案の作成を課し、添削指導を行う。

## ○面接授業課題

学内実習として大学美術館および民俗資料室の施設と業務内容を理解した上で、ワークショップ等教育普及活動の手法を体験するとともに、資料データベースの活用法を修得する。また館園実習として大学美術館および民俗資料室での所蔵資料調書作成、資料貸借業務と梱包作業等の訓練を踏まえ、展示室での資料展示の実習までを行う。

\*課題については学習指導書『博物館実習 平成 30 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

・(学修報告と添削指導) 学内実習(見学実習) 該当 テーマ検討/展覧会の領域決定/対象館の所蔵資料調査/展覧会会場の空間条件把握/対象館の基礎情報把握/対象館の展示状況調査/所蔵資料の詳細調査/展覧会趣旨・目的の構想/展覧会の章立てと展示作品確定/展示作品のデータ整理/作家履歴の調査/会場配置と表示構成検討/関連事業立案/企画書の作成 等

## [面接授業]

・学内実習(事前指導) 該当 オリエンテーション/実習の目標とテーマ/大学美術館の沿革と所蔵資料 等  
 ・学内実習(実務実習) 該当 ワorkshopの立案・実践に向けた演習/workshopの計画/アウトリーチ活動の現状/workshop企画の発表と講評指導/今日の美術と社会をめぐる状況/実習全体についての質疑応答 等  
 ・館園実習 該当 作品調書の作成/資料の梱包/資料借用の手続き/美術館の広報活動/展覧会の企画/展示作品の解説/展示方法の演習/保存科学と修復/展覧会企画の発表と講評指導 等  
 ・学内実習(事後指導) 該当 文化遺産の保存/収蔵品管理の諸問題/美術館・学芸員に関するディスカッション 等

## 成績評価の方法

通信授業のレポートの考査を加味した面接授業で評価する。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 文化支援コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」p.051の特例を除く)。

[備 考] 芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目。  
 芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の3年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

## 教材等

学習指導書:『博物館実習 平成 30 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年)

## その他

レポート作成の際は、課題の趣旨をよく理解するために、よく学習指導書を読むこと。  
 学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。  
 ※この授業科目の面接授業(スクーリング)を受講する以前に、本学が定める必修科目8単位を修得している場合のみ、本学における「学芸員課程単位修得証明書」の発行対象となる。  
 面接授業ではグループワーク及び学外見学を予定。

## 1480 | 文化支援研究

1 単位（通信授業 1 単位）

金子伸二教授

## 授業の概要と目標

来るべき生涯学習社会を目指し、造形の立場に立脚しつつ、文化と社会との関わりを理解し支援するための方法論の探究を行う。

授業では、文化の概念と文化環境の動向把握、今後の展開に向けた検討を行う。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

今日の文化支援をめぐる議論を理解・評価する課題。

\* 課題については学習指導書『文化支援研究 平成 30 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

- ・文化の概念と近代以降の文化研究の系譜を把握する。
- ・今日の文化支援をめぐる議論を理解・評価する。
- ・データを通して文化施設や文化行動の現状と地域文化環境を把握する。

## 成績評価の方法

レポートによる。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 文化支援コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051 の特例を除く）。

[備 考] 芸術文化学科文化支援コース 4 年次必修科目。

## 教材等

学習指導書：『文化支援研究 平成 30 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）